

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成29年度事業)

平成30年8月

大仙市教育委員会

目 次

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検評価の実施方法	1
3	教育委員会の活動に関する事務	2
	(1) 教育委員会の会議の開催状況	2
	(2) 教育長・委員の活動状況	4
	(3) 教育長・委員の研修状況	4
4	総合教育会議の開催状況	5
5	点検・評価の対象事業	6

No.	分 野	事務・事業名	担当課等
1	学校教育	校舎等維持補修及び施設整備事業	教育総務課
2	学校教育	コンピュータ及びインターネット設備整備事業	教育総務課
3	学校教育	外国語指導助手等招致事業	教育指導課
4	学校教育	グローバルジュニアマイスター育成事業	教育指導課
5	生涯学習	国民文化祭継承事業	生涯学習課
6	生涯学習	おもしろ講座	神岡中央公民館
7	生涯学習	高齢者教育事業（寿楽大学）	西仙北中仙公民館
8	生涯学習	出張図書館	中仙公民館
9	芸術・文化	芸術文化振興事業「きょうわ祭」	協和公民館
10	芸術・文化	おらだの秋フェス2017（なんがい地域祭）	南外公民館
11	生涯学習	暮らしの達人講座	仙北公民館
12	芸術・文化	太田地域芸術発表会	太田公民館
13	芸術・文化	大仙市音楽祭2017	総合市民会館
14	芸術・文化	角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業	文化財保護課
15	スポーツ	チャレンジデー2017	スポーツ振興課

6	学識経験者の総評	24
---	----------	----

1 点検・評価の趣旨

大仙市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会が行う教育事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとしました。

2 点検・評価の実施方法

(1) 点検・評価の対象とする事務

点検・評価の対象とする事務は、平成29年度の教育委員会の活動に関する事務のほか、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいせんビジョン、大仙市生涯学習推進計画又は大仙市スポーツ推進計画に基づく同年度に実施した事業のうち、15事業を選定し、点検・評価を行いました。

(2) 点検・評価の方法

点検・評価は、事務事業の点検・評価表により、担当課による自己評価を実施するとともに、有識者からの外部評価をいただきました。

(3) 外部評価していただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、秋田大学教育文化学部 学部長 佐藤修司氏、社会教育委員 鈴木三郎氏、元大曲小学校校長 毛利博信氏の3氏から評価していただきました。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 教育委員会の活動に関する事務

(1) 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会があります。平成29年度は、定例会のほか臨時会を2回開催し、合計14回開催しました。

開催期日 及び場所	議 案
H29. 4. 17 (定例会) 大曲図書館	議案第22号 奨学資金運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第23号 教育アドバイザーの任命に関する臨時代理について 議案第24号 大仙市社会教育委員兼大仙市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第25号 公民館運営協力委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第26号 大仙市立図書館協議会委員の任命に関する臨時代理について 議案第27号 大仙市立図書館運営協力委員の任命に関する臨時代理について 議案第28号 スポーツ推進委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第29号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定に関する臨時代理について
H29. 5. 26 (定例会) 大曲図書館	議案第30号 平成29年度大仙市一般会計補正予算(第2号)案に関する臨時代理について 議案第31号 平成29年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算(第1号)案に関する臨時代理について
H29. 6. 5 (臨時会) 大曲図書館	議案第32号 県費負担教職員の人事の内申について
H29. 6. 29 (定例会) 大曲図書館	議案第33号 給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱に関する臨時代理について 議案第34号 旧池田氏庭園保存整備審議会委員の委嘱について 議案第35号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について
H29. 7. 21 (定例会) 大曲図書館	議案第36号 大仙市社会教育委員兼大仙市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第37号 大仙市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第38号 教育支援専門検査員の委嘱について 議案第39号 大仙市立小学校用教科用図書の採択について
H29. 8. 28 (定例会) 大曲図書館	議案第40号 平成29年度大仙市一般会計補正予算(第4号)案に関する臨時代理について 議案第41号 平成29年度大仙市一般会計補正予算(第5号)案に関する臨時代理について 議案第42号 教育に関する事務の点検・評価報告書案について 議案第43号 教育アドバイザーの任命について
H29. 9. 29 (定例会) 大曲図書館	議案第44号 平成29年度大仙市一般会計補正予算(第6号)案に関する臨時代理について

H29. 10. 20 (定例会) 西仙北中央 公民館	議案第45号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について
H29. 11. 21 (定例会) 大曲図書館	議案第46号 大仙市健康文化活動拠点センター「ペアーレ大仙」の指定管理者の 指定案に関する臨時代理について 議案第47号 神岡中央公園（屋内多目的施設）等の指定管理者の指定案に関する 臨時代理について 議案第48号 大仙市西仙北緑地運動広場野球場等の指定管理者の指定案に関する 臨時代理について 議案第49号 平成29年度大仙市一般会計補正予算（第10号）案に関する臨時 代理について 議案第50号 平成29年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算（第2号）案に 関する臨時代理について
H29. 12. 25 (定例会) 大曲図書館	議案なし（報告案件のみ）
H30. 1. 22 (定例会) 大曲図書館	議案第1号 大仙市旧池田氏庭園管理運営規則の一部を改正する規則の制定につ いて
H30. 2. 22 (定例会) 大曲図書館	議案第2号 平成29年度大仙市一般会計補正予算（第12号）案に関する臨時 代理について 議案第3号 大仙市市民会館等に関する条例の一部を改正する条例案に関する臨 時代理について 議案第4号 大仙市旧池田氏庭園条例の一部を改正する条例案に関する臨時代理 について 議案第5号 大仙市テニスコート条例の一部を改正する条例案に関する臨時代理 について 議案第6号 大仙市サン・スポーツランド協和条例の一部を改正する条例案に関 する臨時代理について 議案第7号 大仙市仙北健康広場条例の一部を改正する条例案に関する臨時代理 について 議案第8号 大仙市荒川鉦山跡地施設条例案に関する臨時代理について 議案第9号 平成29年度大仙市一般会計補正予算（第14号）案に関する臨時 代理について 議案第10号 平成29年度大仙市奨学資金特別会計補正予算（第1号）案に関す る臨時代理について 議案第11号 平成30年度大仙市一般会計予算案に関する臨時代理について 議案第12号 平成30年度大仙市学校給食事業特別会計予算案に関する臨時代理 について 議案第13号 平成30年度大仙市奨学資金特別会計予算案に関する臨時代理につ いて

	議案第14号 平成30年度大仙市スキー場事業特別会計予算案に関する臨時代理 について 議案第15号 大仙市教育委員会職員の懲戒処分について
H30. 2. 26 (臨時会) 大曲図書館	議案第16号 県費負担教職員の人事の内申について
H30. 3. 20 (定例会) 大曲図書館	議案第17号 大仙市招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について 議案第18号 大仙市仙北健康広場管理運営規則の一部を改正する規則の制定について 議案第19号 大仙市テニスコート管理運営規則の一部を改正する規則の制定について 議案第20号 大仙市特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について 議案第21号 教育アドバイザーの任命について 議案第22号 教育アドバイザーの任命について 議案第23号 教育アドバイザーの任命について 議案第24号 社会教育指導員の委嘱について

※ 議案番号は、暦年による一連番号です。

※ 10月の定例会は、移動教育委員会として開催しました。

(2) 教育長・委員の活動状況

入学式 平成29年 4月 6日から4月10日まで 小学校21校、中学校11校 全32校
 公民館訪問 平成29年 4月11日から4月18日まで 市内8公民館
 学校訪問 平成29年 6月20日から11月24日まで 小学校21校、中学校11校 全32校
 卒業式 平成30年 3月10日から3月16日まで 小学校21校、中学校11校 全32校

(3) 教育長・委員の研修状況

平成29年 4月20日・21日 第68回東北都市教育長協議会定期総会及び研修会 教育長が出席
 平成29年 5月18日・19日 第69回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究会 教育長が出席
 平成29年 5月25日 平成29年度全県市町村教育委員会委員長・教育長会議 (第1回)
 教育長及び風登委員が出席
 平成29年 7月14日 平成29年度東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会
 教育長、風登委員、鈴木委員、工藤委員及び高見委員が出席
 平成29年 9月 8日 平成29年度秋田県市町村教育委員会連合会及び秋田県都市教育長協議会合同研修会
 教育長及び風登委員が出席
 平成29年10月20日 大仙市アーカイブズ及びHUBスペース視察
 教育長、風登委員、鈴木委員、工藤委員及び高見委員が出席
 平成29年11月 8日 第2回県南地区教育長会議 教育長が出席
 平成29年11月10日 平成29年度全県市町村教育委員会委員長・教育長会議 (第2回)
 風登委員が出席
 平成29年12月21日 平成29年度大仙仙北美郷教育委員会連絡会
 教育長、鈴木委員、工藤委員及び高見委員が出席

4 総合教育会議の開催状況

総合教育会議とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律第1条の4の規定に基づき、市長と教育委員会を構成員として設置されるもので、市長と教育委員会が教育の課題やあるべき姿を共有し、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としています。

平成30年2月13日、大曲庁舎において平成29年度第1回大仙市総合教育会議を開催しました。

この会議では、平成28年3月1日付けで策定された「大仙市の教育の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「大綱」という。）」の取扱いについて協議するとともに、平成29年度の主な教育施策の概要と今後の教育施策について意見交換しました。このうち、大綱については、老松市長の下でも現行の大綱を引き継ぐことを確認しました。

【平成29年度第1回大仙市総合教育会議】

日時 平成30年2月13日（火）午後4時

場所 大曲庁舎

協議

- (1) 大仙市の教育の振興に関する総合的な施策の大綱について
- (2) 平成29年度の主な教育施策の概要と今後の教育施策について

事務事業の点検・評価表

		番号	1	分野	学校教育	担当課	教育総務課
事業名	校舎等維持補修及び施設整備事業						
事業の目的	学校施設の整備を図り、快適又は安全な教育環境を提供することを目的とする。						
事業の実施状況	事業費						345,795千円
	【主な改修工事】	1 大曲小学校エレベーター改修工事・・・・・・・・・・35,856千円 2 大曲南中学校エレベーター改修工事・・・・・・・・・・29,052千円 3 藤木小学校煙突改修工事(※アスベスト対策工事)・・・・15,379千円 4 高梨小学校トイレ改修工事・・・・・・・・・・・・・・45,684千円 5 豊岡小学校トイレ改修工事・・・・・・・・・・・・・・29,052千円 6 南外中学校トイレ改修工事・・・・・・・・・・・・・・26,082千円 7 中仙小学校水泳プール水源工事・・・・・・・・・・・・ 4,901千円 8 内小友小学校高圧受電設備改修工事・・・・・・・・・・12,312千円 9 大曲小学校高圧受電設備改修工事・・・・・・・・・・34,560千円 10 仙北中学校高圧受電設備改修工事・・・・・・・・・・17,588千円 11 平和中学校体育館屋根外壁改修工事・・・・・・・・・・39,096千円					
	【校舎等維持補修及び施設整備費】				(単位:千円)		
		27年度	28年度	29年度			
	決算額	82,513	163,030	345,795			
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった 学校施設の様々な改修工事を実施し、快適又は安全な教育環境を確保することができた。しかし、他のインフラ同様、経年劣化による老朽化が進んでいる学校施設が多く、老朽化対策のための予算の確保が今後の課題である。						
課題等	建築後30年以上経過している校舎・屋内運動場が6割弱となっていることから、今後、改修に多額の経費を要すると予想される。こうした状況を踏まえ、長寿命化計画を策定し、計画的に改修を行っていくことで改修費の縮減を図る必要がある。						
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ エレベーターやトイレなど、ユニバーサル化、バリアフリー化や災害対応など重要な課題である。同時に、建物の長寿命化、改修費の縮減も課題となることから、今後とも計画的に事業を進めていただきたい。</p> <p>◇ 快適安全な教育環境の整備はエアコン、エレベーターなどの積極的施設整備とともに、経年劣化による老朽化対策も併せて実施しなければなりません。 この3年間は予算額も確実に増額確保されています。国県の補助対象事業に該当されなくとも緊急性、長寿命化の観点から又、災害時の避難場所に指定されている校舎などは優先的に整備してもらいたいものです。</p> <p>□ 校舎補修や学校施設整備事業は、直接的に教育に関わり教育効果として表出する事業でないことから、学校現場からは評価されにくい項目である。しかし、厳しい市財政の中からこれだけ多額の費用が投入されていることを、学校管理職や事務職員だけでなく、全ての学校職員に周知したいものである。そのことは、やがて児童生徒に浸透し、「校舎を大切に使用する心」や「物を大切に扱う心」を育てることにつながっていく。校長会・教頭会・事務職員の研修会等、機会を捉え学校への情報発信をお願いしたい。</p>						

事務事業の点検・評価表

	番号	2	分野	学校教育	担当課	教育総務課																
事業名	コンピュータ及びインターネット設備整備事業																					
事業の目的	この事業は、ICT機器の環境を整備することにより、時代に即した情報化社会に対応できる児童生徒の育成を図ることを目的とする。																					
事業の実施状況	事業費					49,818千円																
<p>現在、各校のコンピュータ教室には児童生徒一人一人が使用できるだけの数のパソコンを備えているが、平成27年度以降、パソコンのリース期間の更新の際、タブレットとしても使えるタイプのノート型パソコンに切り替えている。</p> <p>平成29年度においては、神岡小学校、中仙中学校及び豊成中学校のパソコンをこのタイプに切り替えるとともに、電子黒板及び実物投影機も各校にそれぞれ2台ずつ配備した(7,281千円)。</p> <p>【ICT機器配備台数】</p> <p>パソコン台数:小学校 717台、中学校 487台 電子黒板数:小学校 25台、中学校 18台 実物投影機:小学校 56台、中学校 16台</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: left;">【ICT機器リース料】</th> <th style="text-align: right;">(単位:千円)</th> </tr> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%;">27年度</th> <th style="width: 15%;">28年度</th> <th style="width: 15%;">29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">小学校</td> <td style="text-align: center;">23,277</td> <td style="text-align: center;">22,949</td> <td style="text-align: center;">23,243</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">中学校</td> <td style="text-align: center;">26,380</td> <td style="text-align: center;">26,053</td> <td style="text-align: center;">26,575</td> </tr> </tbody> </table>							【ICT機器リース料】			(単位:千円)		27年度	28年度	29年度	小学校	23,277	22,949	23,243	中学校	26,380	26,053	26,575
【ICT機器リース料】			(単位:千円)																			
	27年度	28年度	29年度																			
小学校	23,277	22,949	23,243																			
中学校	26,380	26,053	26,575																			
自己評価	<p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>平成29年度において、上記3校については、児童生徒用のパソコンをタブレットとしても使えるノート型パソコンに切り替えることができたため、キーボードでの操作方法に加え、携帯型パソコンの操作を習得する環境が整った。</p> <p>また、従来の学習ソフトに加えて、電子黒板及び実物投影機も追加配備したことから、これらを活用した授業を行う環境も整えることができた。</p> <p>こうしたことから、平成29年度は目標を順調に達成したと判断した。</p> <p>平成33年度までには、全ての学校のICT環境を同様に整備していく方針である。</p>																					
課題等	学校の授業においては、ICT機器や学習ソフトがいくら充実しても、これらを活用できる教員がいなければ無駄になるため、教員のICT活用指導力の向上が必要不可欠となる。																					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ プログラミング教育・学習が重要になることから、機器・設備の充実とともに、その活用についても十分に配慮していただきたい。ICTなどに関わる支援員などを配置し、教職員を支援することで、多忙化の防止と、効果的なICT活用が可能になると思われる。</p> <p>◇ 文部科学省では平成30年度以降、小学校においてはプログラミング教育が必修化されることになり、時代に即したICT機器の整備が緊急となっています。</p> <p>現在、各校のコンピュータ教室には児童生徒一人1台の使用ができるパソコンを備えています。順次ノート型パソコンに切り替えが進んでいます。平成33年度までには全ての学校のICT環境を整備していく方針となっています。</p> <p>しかし、ICT指導教員が不足しているなど今後の課題もあります。教員の負担増にならないためにも、市から指導員の派遣などが考えられないか検討してもらいたいものです。</p> <p>□ 今後、全職種で高度なICTが求められると思われる。また、ますます進展するであろう国際化やグローバル化への対応を考えると、ICT機器環境整備とICT教育充実は、非常に重要な教育行政施策である。しかし、ICT機器環境を整備すること、イコールICT教育充実ではないことに配慮いただきたい。ICT教育充実のためには、教職員がICT機器を十分に活用できること、そして柔軟にICT機器を活用した新しい授業の構築ができることが必須となるからである。</p> <p>ICT機器の効果的な活用は、教員の授業準備や児童生徒の評価への活用、授業での豊富な資料や写真など教材準備への活用、つまり教職員の多忙を軽減する上でも非常に力を発揮すると考える。また、児童生徒にとっては、楽しく分かりやすい授業や主体的に学習するアクティブラーニング創造の上でも効果的であり、機器整備と同時にICT教育充実に向けた教師の研修充実にも意を注いでいただきたい。</p>																					

事務事業の点検・評価表

	番号	3	分野	学校教育	担当課	教育指導課
事業名	外国語指導助手等招致事業					
事業の目的	国際化の進展に伴い重要視される国際理解教育及び外国語教育の充実のために、外国語指導助手(ALT)・国際交流員(CIR)を配置し、児童・生徒の国際感覚、コミュニケーション能力の向上を図る。					
事業の実施状況	事業費		38,683千円			
	現在、ALT・CIR計9人を配置し、中学校英語科の学習指導に加え、小学校における外国語活動の授業時数のおよそ半分はネイティブスピーカーとの授業が実施できる体制を整えている。					
	【ALT・CIR配置予定人数】 (単位:人)					
		28年度	29年度	30年度	31年度	
	ALT	7	8	8	9	
	CIR	1	1	1	1	
	計	8	9	9	10	
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった					
	平成29年度はALTを1人増員し、仙北中学校区に配置したことで、授業日数を増やし指導の充実を図ることができた。これまでは隔週の訪問だったが、増員により毎週授業に加わることが可能になった。平成31年度にはもう1人増員を予定しており、兼任校が他地区よりも多い中仙・豊成中学校区において改善を図る予定である。これにより、ALTと小学校教員とのチーム・ティーチングの授業時数が増え、より質の高い授業につながっている。また、児童生徒が日頃からALTと関わる機会が増えたことで、英語学習への関心や、もっとALTと英語でコミュニケーションを図りたいという意欲は着実に高まっている。					
課題等	小学校の新学習指導要領が平成32年度から全面実施されることに伴って、小学校における外国語活動・外国語の授業時数が、現在の3倍となることから、この事業の必要性は今後更に高まると考えられる。児童生徒が生きた英語に触れる機会を保障することで、コミュニケーション能力の素地や基礎が一層養われていくよう、ALT・CIRの配置校や授業時数等を今後も考慮しながら、より効率的で効果のある派遣になるよう、改善していく必要がある。					
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○ 財政的に厳しい面もあると思われるが、可能な手立てを尽くして、ALT・CIRの一層の増員・充実に努めていただきたい。同時に、ALT・CIRの力量の向上や、連携する小学校教員、中学校教員等との効果的な連携に努めていただきたい。</p> <p>◇ 現在、大仙市では外国語指導助手(ALT)・国際交流員(CIR)を9人配置しています。小学校の新学習指導要領が平成32年度から全面実施となり、小学校における外国語活動・外国語の授業時数が現在の3倍になることから、この事業の重要性が増すものと思われます。市の単独事業ではありますが、望ましい配置人員を確保できるよう御配慮願います。</p> <p>□ まずは、これまでのALT・CIR増員と今後の拡充の方向に対し、感謝と敬意を表したい。その上で、大きな転換期を迎えている我国英語教育の流れの中で、グローバル化への対応とは、即英語化ではないことも押さえない。グローバル市民を育てるためには、何よりも世界の多様性、人間の多様性、言語と文化の多様性を認識する教育が必要であり、その思考の中心となるものは国語である。さらには、世界に生きる日本人としての道徳教育充実も欠かせない。</p> <p>課題を2点。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語・英語活動を指導する小学校教員への、市教育委員会としての支援のあり方。 2 小学5・6年生の7割が「英語が好き、どちらかといえば好き」と回答している。中1では6割、2年で5割、高3年で4割と、年齢を重ねると「好き」の割合が減少傾向にある(文部科学省実施「児童生徒の英語意識調査」)。このことは、逆に言えば現在の小学5・6年生の外国語活動は、非常に良好な状況にあることを示しているのではないのか。その楽しい英語活動が教科化されたときに、どう楽しさを維持することができるのか、市教育委員会の指導性と各校の取組に期待申し上げたい。 					

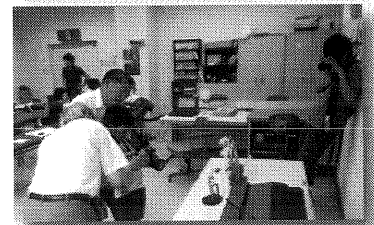
事務事業の点検・評価表

		番号	4	分野	学校教育	担当課	教育指導課
事業名	グローバルジュニアマイスター育成事業 ※平成29年度新規事業						
事業の目的	国内外の多様な人々との交流や、ふるさとの良さを発信するなどの活動を通して、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。						
事業の実施状況	事業費						95千円
	<p>【事業概要】 児童生徒が海外や県外の方々との英語等を使ったコミュニケーション、情報交換、観光案内など目的をもった交流活動を実施した場合に、内容に応じてポイントを付与し、獲得数に応じて、グローバルジュニア(ブロンズ、シルバー、ゴールド、マイスター)に認定する。</p> <p>1 対象 大仙市内の児童生徒(小学3年生～中学3年生) 2 活動時期 通年 3 活動場所 限定しない。 4 活動内容 I 授業以外でのALT・CIR等との交流 II 国際教養大学との異文化交流事業における留学生との外国語での交流 III 海外や県外からの観光客などに、観光案内や地域のPRを通しての交流 IV 英語スピーチコンテストやイングリッシュキャンプ等への参加</p> <p>【平成29年度認定者数】 ブロンズ:148人 シルバー:20人 ゴールド:7人 マイスター:2人</p>						
自己評価	<p> <input checked="checked" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった </p> <p> 学校行事や、「国際教養大学との異文化交流事業」を生かした取組が成果として挙げられる。 例1) 平和中学校では、11月に行われた「インターナショナルデー」終了後の時間を活用して、ALTやCIRとの会話のやりとりを楽しんだ。 例2) 横堀小学校では、10月に国際教養大学を訪問した際に、学生や教授との会話のやりとりを楽しんだ。 特に、国際教養大学の留学生との交流は、本事業の目的を達成する上で、児童生徒にとって大変貴重な機会であり、今後も連携を強めていきたい。 また、県教委主催イングリッシュキャンプへの参加希望者が増加傾向にあり、英語を使ってALTと生きたコミュニケーションを図りたいという意欲が高まってきている。 認定者数は前期28人に対して、後期が149人で、各校での取組が進んできている。 </p>						
	課題等	ポイントが付与される場面が限定されるため、機会の確保が難しい点や、ALTの勤務の関係で、休み時間・放課後などに児童生徒がALTと話す時間が十分確保できないなどが課題として挙げられる。限られた機会を生かすために、1日の活動であっても、複数回挑戦したり複数の相手と交流したりすることができた場合は、その分のポイントを追加し、意欲的な取組にはどんどんポイントを与えていく必要がある。					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 効果的な取組であり、一層の充実を図っていただきたい。授業外でのALT・CIRと児童生徒との交流が図れるように、ALT・CIRの増員や勤務条件の改善等に努めていただきたい。</p> <p>◇ 平成29年度からスタートした事業です。小学校の英語授業を先取りした取組と思われる。ポイントの獲得数に応じて認定する制度で、楽しみながら児童生徒間の競争意識が高まる効果が見込まれます。各学校間でのポイント認定にばらつきが無いよう基準を設けていますが、上位を目指したくなるような仕組みを工夫し、更なる発展を期待します。</p> <p>□ グローバル化への対応を、学校内・教室内での活動にとどめず、地域教育素材や留学生との交流を通して推進しようとする観点が素晴らしい。更なる発展性が感じられる教育施策である。児童生徒の興味関心を引きつけ、上位ランクを目指してより多くのポイントを獲得しようという意欲を継続させることができる。ポイントが付与される活動は、市内教職員や児童生徒に意見を求めることで、一層楽しく豊かな内容を見いだせるものとする。</p> <p>活動の幅を広げ質を高めるために、事業費の増額を期待したい。</p>						

事務事業の点検・評価表

番号	5	分野	生涯学習	担当課	生涯学習課
----	---	----	------	-----	-------

事業名	国民文化祭継承事業																
事業の目的	「第29回国民文化祭あきた・2014」の開催趣旨となった「地域文化の発信と次世代の文化継承者育成」を目的とした国民文化祭継承事業を実施し、次世代の文化継承者育成と底辺拡大を目指す。																
事業の実施状況	事業費	552千円															
	(平成29年度「国民文化祭継承事業」開催) 「第29回国民文化祭・あきた2014」の開催趣旨を継承する次の3事業を実施した。																
	【伝統文化継承事業】 / 平成27年度までは、国指定名勝「旧池田氏庭園」内会場にて茶道や華道などで和の心を演出していたが、平成28年度から会場を天候に左右されない大曲市民会館へと変更。名称を、「伝統文化MIRAIステージ」に改め、平成29年度は第2回として開催。子ども・若者を中心に多彩な文化活動成果を披露いただいた。																
	・伝統文化MIRAIステージ / 232人(観客150人、出演者82人) [10月7日(土)・大曲市民会館大ホール]																
【囲碁サミット継承事業】 囲碁を通じた子ども世代の交流や、次世代の囲碁文化継承者の育成と底辺拡大を図った。																	
・子ども囲碁大会(中学生以下) / 参加28人 [9月30日(土) / 仙北ふれあい文化センター] ・大仙囲碁合宿(幼児・小中高大学生) / 参加52人 [3月17日(土)・18日(日) / 八乙女交流センター]																	
【秋田の美×写真の力】継承事業 写真文化の発信と知識や技術の向上を目指して、写真教室と、市内写真愛好団体との合同写真展を開催。																	
・子ども写真教室(市内小学生) / 20人(参加14人、指導者6人) [8月12日(土)・大曲交流センター] ・子ども写真展 / 応募14点、来場115人 [8月11日(金)～16日(水)・大曲交流センター]																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">(参加状況推移)</th> <th style="width: 25%;">(平成28年度)</th> <th style="width: 25%;">(平成29年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 伝統文化継承事業 (「伝統文化MIRAIステージ」) </td> <td> 来場者：325人 (観客200人、出演者125人) </td> <td> 来場者：232人 (観客150人、出演者82人) </td> </tr> <tr> <td> 囲碁文化継承事業 (「囲碁サミット」) </td> <td> ・子ども囲碁大会：30人 ・大仙囲碁合宿：46人 </td> <td> ・子ども囲碁大会：28人 ・大仙囲碁合宿：52人 </td> </tr> <tr> <td> 写真文化継承事業 (「秋田の美×写真の力」) </td> <td> ・国文祭回顧展：150人 ・子どもフォトコンテスト：85点 </td> <td> ・子ども写真教室：20人(参加14人、指導者6人) ・子ども写真展：14点 </td> </tr> </tbody> </table>						(参加状況推移)	(平成28年度)	(平成29年度)	伝統文化継承事業 (「伝統文化MIRAIステージ」)	来場者：325人 (観客200人、出演者125人)	来場者：232人 (観客150人、出演者82人)	囲碁文化継承事業 (「囲碁サミット」)	・子ども囲碁大会：30人 ・大仙囲碁合宿：46人	・子ども囲碁大会：28人 ・大仙囲碁合宿：52人	写真文化継承事業 (「秋田の美×写真の力」)	・国文祭回顧展：150人 ・子どもフォトコンテスト：85点	・子ども写真教室：20人(参加14人、指導者6人) ・子ども写真展：14点
(参加状況推移)	(平成28年度)	(平成29年度)															
伝統文化継承事業 (「伝統文化MIRAIステージ」)	来場者：325人 (観客200人、出演者125人)	来場者：232人 (観客150人、出演者82人)															
囲碁文化継承事業 (「囲碁サミット」)	・子ども囲碁大会：30人 ・大仙囲碁合宿：46人	・子ども囲碁大会：28人 ・大仙囲碁合宿：52人															
写真文化継承事業 (「秋田の美×写真の力」)	・国文祭回顧展：150人 ・子どもフォトコンテスト：85点	・子ども写真教室：20人(参加14人、指導者6人) ・子ども写真展：14点															
<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </td> </tr> </table>						<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった																
自己評価	旧池田氏庭園を会場におもてなし事業として開催された「秋の園遊会」事業については、大曲市民会館へと会場を移し、文化発信型イベント「MIRAIステージ」として今回で2回目の開催となった。当日は、若手を中心に日頃取り組まれている様々な文化活動成果について披露され、かけがえのない伝統・郷土文化の発信という側面と、鑑賞者自身も活動に参加してみたいと考えていただけるような気運の醸成につながる事業として実施することができた。 また、囲碁や写真の継承事業については、今回も一部を「子ども普及事業」として実施できたことにより、大仙市の特色ある子ども体験活動の一つとして、広く市民に認知される成果も挙げることもできた。特に写真事業は、子どもや親子向けの一瞬レフカメラ教室の開催に際し、市内の写真活動団体の会員が指導者を務めるなど、市民が主体的に自らが学んだ成果を、他の住民に教え伝えていく「知の循環型社会」実現に向けた先進的なモデル事業となったと言える。																



<p>課題等</p>	<p>MIRAIステージについては、子ども・若者等の充実した舞台で観客を盛り上げたが、集客の面で一層の工夫が必要であり、周知方法について再考する。</p> <p>また、秋田の美×写真の力継承事業では、撮影技術や着眼点などを競わせるコンテスト形式を改め、市内愛好者の作品と、子どもたちの作品を同時に展示する「合同写真展」としての開催へと変更したことから、単純な比較はできないが、応募数について前年対比で大幅に落ち込んだ。</p> <p>今後は、市民愛好団体の主体的な事業として展開される方向であり、一層子どもが写真について興味を持ち、多くの作品を応募いただけるように写真愛好団体との連携が課題となる。</p>
<p>外部評価 有識者の 意見・評価</p>	<p>○ 児童生徒、若者が関わる形で伝統文化の発表会が行われることは大変望ましい形である。若い層に裾野が広げられるように今後とも取り組んでいただきたい。囲碁や写真が継承事業として取り上げられているが、今後、将棋やダンスなど、対象を広げていくのか、絞った形で継続するのか、検討していただきたい。</p> <p>◇ 2014年に開催された「第29回国民文化祭あきた」を継承する目的で開催されてきた事業と認識しています。伝統文化、囲碁文化、写真文化の三事業を毎年継続して実施してきましたが、全体的に観客・出演者の数は横ばいか減少傾向にあると思われます。スタートする時点で継続期間を設けるなどし、一定期間が経過した時点で事業の在り方を振り返ることも必要ではないでしょうか。</p> <p>□ いずれの事業でも、参加者と観覧入場者の確保に苦慮していることが、文面から伝わってくる。周知方法やPR面での工夫をする中で、何より伝統文化や地域での文化活動を次世代につなげていくことの意義や大切さを、市民にしっかりと再認識させたいものである。失ってからでは取り返せないものがあること、加えて伝統文化や地域の文化活動を継承する活動の中に、学校教育にはない多くの教育力が含まれていることを児童生徒や保護者にも理解いただきたい。</p>

事務事業の点検・評価表

	番号	6	分野	生涯学習	担当課	神岡中央公民館
事業名	おもしろ講座					
事業の目的	歴史や文化、自然科学など様々な分野の専門家を講師に招き市民講座を開催し、学ぶ楽しさを体感しながら自己の知識や教養を深めるとともに、生涯学習の推進や郷土理解を図る。					
事業の実施状況	事業費		190千円			
	平成4年8月に「郷土史おもしろ講座」として開講した。当初は、郷土の歴史や文化をテーマとした講座としてスタートしたが、郷土史に限定せず幅広い分野のテーマを盛り込むため「おもしろ講座」に名称を変更した。平成30年3月で通算297回を数えている。					
事業の実施状況	1 開催期日 平成29年5月17日～平成30年3月14日 (4月と1月を除き月1回・延べ10回開講) 2 開催場所 かみおか嶽雄館ビデオシアターホール(9月は市外への視察研修) 3 講座内容 歴史・民俗5回、農業2回、自然科学1回、芸術1回、民話1回 ※農業2回のうち1回は県庁の出前講座を利用 平成27年度会員数 58人 延べ受講者数 422人 ※年11回開講 平成28年度会員数 57人 延べ受講者数 400人 ※年10回開講 平成29年度会員数 55人 延べ受講者数 344人					
	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった					
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマが豊富で、年間を通して受講できることから受講者に喜ばれている。 ・ 当初は、神岡地域の講座として開設していたが、口コミで人気が高まり、地域外からの受講者も確保できた。※平成29年度は18人/55人(33%) ・ 市の広報で情報提供することにより単発で聴講される方もおり、講座の活性化につながっている。 ・ 年間講座に県庁の出前講座等を組み込み、経費の節減と内容の充実を図っている。 					
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力ある講座の提供が受講者確保につながることから、常に受講者ニーズの把握に努めるとともに、限られた予算で講師を確保することが課題となっている。 ・ 受講者数はほぼ横ばいであるが、高齢等により退会される方もいるので、講座の魅力をアピールし、新規受講者の拡大に努める必要がある。 					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 郷土史に限定せず、受講者の関心に合わせた幅広いテーマで実施することは望ましいことである。受講者や住民(自治会、老人会等)のニーズ調査も行いながら実施してほしい。</p> <p>◇ 神岡町時代から26年間も継続されていますが、これほどの長期にわたり開催されている講座は他には見当たりません。受講者の声からも、多様なテーマが魅力的であり、長年続いてきた原動力となっているのでしょう。市の広報誌、ホームページなどで毎月講座内容をお知らせするなどして、全市に渡る受講生の増加につなげてもらいたいです。</p> <p>□ 通算300回近い「おもしろ講座」の継続開講に、まずもって心から敬意を表したい。また、口コミで地域外からの受講者が出てきていることは、講座内容が魅力的であり豊かであることの証明であり、嬉しいことと思う。</p> <p>人口減少と超高齢化に歯止めがかからない現況での受講者数減少は、ある程度やむを得ないことと受け止める。むしろ、今現在「おもしろ講座」をがんばって受講している皆さんに、一層喜んで参加いただけるよう、内容充実には配慮いただきたい。一番の味方は、受講している方々であり、一番のPR方法は、口コミではないかと常々感じている。</p>					

事務事業の点検・評価表

	番号	7	分野	生涯学習	担当課	西仙北中央公民館												
事業名	高齢者教育事業（寿楽大学）																	
事業の目的	大仙市生涯学習推進計画に基づき、高齢者が主体的に学習を行える環境を整え、学んだ成果を地域や家庭で十分発揮できるような学習の推進を進め、個人が生きがいや自己表現など人間性豊かな生活を求めようとする意識の高揚を図る。																	
事業の実施状況	事業費		134千円															
事業の実施状況	<p>本大学は、5月から11月まで7講座（園芸・料理・スポーツ・詩吟・民謡・郷土史・書道）を設けて計7回開催している。西仙北地域の60歳以上の方であれば、どの講座にでも参加でき、趣味や自己研磨の場として受講いただいている。開催日の午前中は各講座別学習を講師の助言を受けながら行い、午後からは全講座共通の学習として、受講生の交流を図る意味から、レクリエーション的健康講演、民謡公演、おもしろ講演等趣向を凝らした企画で実施している。閉講式では、受講生から1年間の学習成果を発表していただき好評を得ている。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受講数</td> <td>平成27年度</td> <td>8講座</td> <td>103人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>平成28年度</td> <td>7講座</td> <td>101人（生け花 減）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>平成29年度</td> <td>7講座</td> <td>95人</td> </tr> </table>						受講数	平成27年度	8講座	103人		平成28年度	7講座	101人（生け花 減）		平成29年度	7講座	95人
受講数	平成27年度	8講座	103人															
	平成28年度	7講座	101人（生け花 減）															
	平成29年度	7講座	95人															
自己評価	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </p> <p>年々受講者は減少傾向にあるが、それでも100人を数える高齢者の方々の学習の場となっている。また、参加者には、自発的に個別の研究課題を見つけ自己研磨されている方も多数おり、地域の活発な交流が期待される。月1回の開催ではあるが、高齢者の方々に活動の場を提供し、参加者同士の交流や生涯学習のゆっくりとした学習を展開して皆さんに楽しんでいただいている。また、交通手段についても、なるべく自宅近くまでの送迎計画を立て、今後も継続事業として取り組んでいく。</p>																	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者が年々減少傾向にあることを考慮しながら、平成30年度の実施状況を踏まえ弊害等を検討する。 ・ 本大学は平成31年度に50回目の節目を迎えることから、大幅な計画変更も視野に入れながら検討していく。 ・ 高齢者のニーズにあった新しい講座や西部地域の公民館との情報交換に努めながら、将来的な方向への連携や共催等を視野に入れた事業計画を進めていく。 																	
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 送迎のことも考えられており、高齢者に十分な配慮がなされている。参加者の増加、新規開拓を目指して、60歳前の人に活動を知ってもらう機会を増やすように努めていただきたい。</p> <p>◇ 毎月1回、7講座を開催してきましたが、年々減少傾向にあります。こうした講座は、各地域の公民館でも開催されていますが、どこも同じ悩みを抱えています。合併後10年以上経過したことから、同じ公民館事業であるこの講座の共同開催など、生涯学習課として将来像を早めに検討することが必要と思われます。</p> <p>□ 寿楽大学は、来年度で50年目の節目を迎えるとのこと。これまで継続したこと、どれほど多くの方々に生きがいと喜びを提供してきたこと、また継続のために費やした努力の大きさにも思いをいたすと感慨深い。本事業は、これまでも世相や状況の変化に対応し、様々に変化を加えながら継続してきたものと思われるが、館の全面建替え工事という大きな変化の中で、50年の節目にも柔軟に対応いただきたい。</p> <p>受講している高齢者の方々を、できるだけ自宅近くまでの送迎できるよう計画を立てたり、他公民館との連携や共催等を視野に入れるなど、進取の気性が素晴らしいと思う。</p>																	

事務事業の点検・評価表

	番号	8	分野	生涯学習	担当課	中仙公民館
事業名	出張図書館					
事業の目的	中仙地域の6分館で行われる各分館まつりに出向き、中仙図書館へ来館したことがない、又は来館することが困難な市民に本に触れる機会をつくり、図書館を知ってもらうことにより図書館の利用拡大を図ることを目的とする。(図書館の利便性と活用方法の周知。)					
事業の実施状況	事業費			0千円		
	<p>・開催日 平成29年 9月17日(日) 清水分館 10月 7日(土) 豊岡分館 10月15日(日) 豊川分館 10月22日(日) 長野分館 10月29日(日) 鶯野分館 鐘見内分館</p> <p>・開催時間 午前10時～午後1時</p> <p>・内 容 図書館の図書資料(一般書・児童書・視聴覚資料)を展示 希望者に貸出(返却は、各分館でも可とする。)</p> <p>〈実績〉 平成28年度 貸出者数 24人 貸出冊数 43冊 平成29年度 貸出者数 20人 貸出冊数 36冊</p>					
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった					
	<p>・ 貸出者数、貸出冊数は減少したものの全分館で本の貸出があるとともに、会場で本を手に取りその場で椅子に腰掛けて本を読む人の数が多くなった。</p> <p>・ 前年度の事業内容を見直し、座ることができるスペースを設けたり、郷土資料を多く持っていったりと年配の人が興味を持って本を手にとってもらうことができる環境を整えることができた。</p> <p>・ 郷土資料は貸出禁止資料であるため貸し出すことはできなかったが、本来の目的である「本に触れる機会をつくり、図書館を知ってもらう」ことができた。</p> <p>・ 児童書を多く展示することで、分館まつりに参加している児童にも読書の楽しみを知ってもらい、読書の楽しさが地域や社会の中へ循環していくきっかけとなった。</p>					
課題等	<p>・ 本に興味を持ってもらった人を、今後どのように図書館利用につなげていくかが課題である。</p> <p>・ 図書館までの交通手段がなく、普段図書館に来ることができない人に貸出等できるような事業に発展していくことを目標としたい。</p>					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 各分館に常設の図書コーナーを設けることが可能か、検討をお願いしたい。無理であっても、出張図書館のような時に、ネットなど、様々な手段で中仙図書館の図書資料等を活用できるように周知する機会としてほしい。</p> <p>◇ 各分館に出向いて本に触れる機会をつくることは、図書館の利用拡大につながる成果が表れていると思います。他の地域の各分館にも、同様の方策で普及させることも一案かと思えます。</p> <p>□ ゼロ予算で、できることに取り組んでいこうとする意欲に拍手を送りたい。貸出者数や貸出冊数が少なくても、是非継続いただきたい。何もしないところからは、何も見えてこないと考えます。継続する中で、新しい事業の展開などが開けてくることがあると期待する。</p> <p>分館まつりでは、御高齢の来場者が多いことから、郷土資料を多く持参したとの報告がある。今後、機会を捉えて、昔の写真等も含め郷土資料の寄贈などいただけないものだろうか。また、地域内小学校と何らかの形で連携し、図書活動の充実を図れないものであろうか。</p>					

事務事業の点検・評価表

	番号	9	分野	芸術・文化	担当課	協和公民館
事業名	芸術文化振興事業「きょうわ祭」					
事業の目的	協和地域の産業・芸術文化の振興と発展を図り、互いの学びを通してつながりを深め、生きがいのある楽しい地域社会を築くために皆が意識を共有し、地域の活性化を目指すことを目的とする。					
事業の実施状況	事業費		470千円			
事業の実施状況	<p>毎年、テーマを設けて実施しているが、平成29年度は7月・8月の豪雨災害の復興と地域の活性化を担う事業と位置付けし、「つながり」をテーマに地域住民・企業・商店が一体となり地域の力で元気を取り戻し、そして子どもから高齢者まで楽しんでいただけるイベント内容を企画した。</p> <p>平成29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：平成29年10月28日(土)・29日(日) ・会場：協和市民センター「和ピア」 ・内容： <ul style="list-style-type: none"> 芸文協加盟団体・児童生徒・一般・婦人団体・福祉施設等による作品展示や芸能発表、PATCHワーク・絵手紙等の体験講座や地元商店・農業者団体による販売はもちろん、今年度初のNPO障害者施設による出店、ワークショップ・フリーマーケット、中学生喫茶「ホットスペース」、そして「こども縁日」や「働く車の展示」、最後にはお楽しみ抽選会など、これまでのマンネリ化してきた内容を見直し、新たな企画を加えた。また、二日間にわたり少額ではあるが、災害復興に充てた募金も集まった。 二日目には県内初の「全県すこっぷ三味線フェスティバル」を開催したことで、協和から全県・遠くは北東北まで、すこっぷ三味線の魅力を発信し観客を呼び、地域に活気と元気を与える内容となった。 <p style="text-align: center;">【来場者数 平成27年度 1,700人、平成28年度 1,700人、平成29年度 2,000人】</p>					
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div> <p>地域の活性化を目指し、また、協和芸文協をはじめとする地域住民の学習成果の発表・展示及び鑑賞機会を提供する場として毎年開催されてきているが、内容のマンネリ化が課題とされていた。</p> <p>今年度は、夏に甚大な被害を受けた協和地域の復興と、一日も早く地域が元気を取り戻すことを願い、また、本来の「地域祭」の在り方を振り返るとともに新たな企画を取り入れ、公民館主導から支所地域全体での取組とした。さらには、関係各団体からも多数の意見を頂戴し、その意見を反映しながら一体となり、地域の復興と活性化を図った。こうした取組により、これまでになく集客と協和地域を活気付ける一助となった。</p>					
課題等	<p>二日間の日程で開催されるイベントであるが、近年は二日目の来場者が極端に減少している。まだ災害の爪痕が残るこの地域を今後も元気に、そして活性化するための地域祭を目指し、地域のつながりを大事に特色ある事業にしていかなければ集客は難しい。</p> <p>これまで公民館主導・公民館事業とした流れで実施されてきたが、その位置付けを見直し、協和地域が一体となった事業と捉え、内容の変革を図りながら取り組んでいかなければならない。</p>					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 地域住民、企業、商店、芸術団体、児童生徒、福祉施設、農業者団体など、地域の様々な人々が集まって交流できる機会となっており、今後とも継続してほしい。「つながり」や「復興」など、地域の時々の課題を踏まえたテーマが設定されており、住民全体の意識を高める効果も持っている。</p> <p>◇ 夏に甚大な被害を受けた協和地域の復興を願い、地域を元気付けるねらいで開催されたことは大きな励ましになったことでしょう。翌年度以降、どうするかが課題とされます。協和には、地域おこしに向け積極的に活動する団体・個人の存在があります。公民館としても側面から支援しながら、今後の運営とともに全市を巻き込んだ行事に発展されることを期待します。</p> <p>□ 新しい取組を実施しようとする場合には、リスクを伴うこともあり、少なからず躊躇するものである。平成29年度「きょうわ祭」で、豪雨被害からの復興をテーマに盛り込み、地域一帯となって展開しようとした折にも、大いに勇気を必要としたことと推察する。この新しい試みが、大幅な集客増となり地域の活性にもつながったことは、誰よりも地域住民が実感していることであろう。この成功を糧とし、「協和地域が一体となることの素晴らしさ」をコンセプトとして多くの意見を集約し、更には地域の小・中学校の協力も引き続きお願いしながら、みんなの「きょうわ祭」を創りあげていただきたい。</p>					

事務事業の点検・評価表

	番号	10	分野	芸術・文化	担当課	南外公民館
事業名	おらだの秋フェス2017(なんがい地域祭)					
事業の目的	生涯学習として活動する各種団体に、日頃の学習成果を発表する機会を提供し、相互交流を深めながら地域伝統文化の継承を図る。 また、農産物品評会を開催し、食の安全や生産技術への関心を高めるとともに、地元住民総参加の催しを通じて明るく活力ある地域づくりに寄与する。					
事業の実施状況	事業費				614 千円	
事業の 実施状況	◇開催日 平成29年10月29日(日) ◇主会場 南外コミュニティセンター、南外公民館、支所前駐車場 ◇実施内容 ・芸術文化団体によるステージ発表、作品展示 ・出前民謡「ふるさと民謡めぐり」 ・園児、中学生によるステージ発表や絵画・書道などの作品展示 ・茶道や囲碁などの体験コーナー ・JAや商工会を中心とした関係機関協力による出店、食堂コーナーの開設 ・農産物品評会 ・宮城県南三陸町特産品販売コーナーの開設(販売に中学生が協力) ◇来場者数 平成27年度 1, 250人 平成28年度 1, 300人 平成29年度 1, 100人(小学校の学習発表会と重なったため来場者減)					
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった このイベントは南外地域「秋の総決算行事」であり、生涯学習として活動する各種団体が、1年間の学習成果を発表したり作品を展示して地域住民に鑑賞してもらう貴重な機会となっている。 地域祭に限らず様々なイベント会場は、人が集まることにより出会いや会話が生まれ、日頃なかなか会うことのできない住民同士の情報交換の場にもなる。地域における近所付き合いや声かけなどが年々少なくなっている現状を考えると、人が集まる場所は地域住民にとっていかに大切な場であるかがい知ることができる。 平成27年度からは、震災後交流を続けている南三陸町仮設住宅の自治会長さんの協力により「新鮮な魚や海産物の販売」を行っている。これが地域住民に評判が良く、このイベントに欠かせないものとなった。 「地域祭」が、地域の交流や絆を深める貴重な場であることは明確であり、人口減少、少子高齢化が急速に進んでいるが、地域の元気が損なわれることがないよう工夫を重ね事業を継続していきたい。					
課題等	イベントに参加した人数の多少が事業評価の一つにされると思うが、今後は「イベントを見てきた」という人よりも「イベントに参画した、関わった」という人の数を増やしたい。地域住民には、何らかの形で事業に加わっていただきたい。 また、学校の協力は必要不可欠であり、そのためにも普段からの連携が大切である。					
外部評価 有識者の 意見・評価	<input type="checkbox"/> 地域全体の取組となっており、住民の共同体意識を高めるだけでなく、南三陸町とのつながりなどもあって、外にも開かれたものになっている。今後、小学校の学習発表会など、学校の行事と重なることがないよう、事前のスケジュール調整を図っていただくようお願いしたい。 <input checked="" type="checkbox"/> 地域祭が地域の交流や絆を深める場となっています。実施内容も豊富ですが、宮城県三陸町の特産品を販売するなどして交流を深めてきたことが参加者の定着につながっています。地域住民が積極的に参画する仕掛けと住民感情があることでしょうか。住民の協力体制を維持しながら、他の地域行事も活性化しよう望みます。 <input type="checkbox"/> 「なんがい地域祭」が、毎年1,000人以上の住民参加を得て、地域の心の拠り所となるイベントに成長したのは、これまでの担当者各位の不断の努力のたまものである。南外地域からは、自分たちの地域を、自分たちの手で創りあげていこうとする気概を感じる。課題欄で述べられている、「イベントを見に来る人より、イベントに参画する人を増やしたい」との考え方にも、大いに賛同したい。是非、南外地域で子供から高齢者までが、一人一役で生き生きと活躍する地域イベントを実現していただき、それが市内地域イベントを企画する上での、一つの指標となることを期待したい。					

事務事業の点検・評価表

	番号	11	分野	生涯学習	担当課	仙北公民館
事業名	暮らしの達人講座					
事業の目的	日々の暮らしや興味に役立つ講座を開催することにより、市民の生活を豊かにすることを目的とする。					
事業の実施状況	事業費		277千円			
	①対象者 大仙市民 ②開催日 7月～3月の期間中 計7企画 ③事業内容 平成29年度はマナーや美容、環境、料理、文化などの様々なテーマで講座を開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月 20日(木) 「葬祭マナー講座」 受講者31人 ・ 8月 5日(土) 「ヨガ体験講座」 受講者21人 ・ 12月 23日(土) 「リメイクキャンドル作り講座」 受講者18人 ・ 2月 8日(木) 「古文書入門講座1回目」 受講者18人 ・ 2月 22日(木) 「古文書入門講座2回目」 受講者20人 ・ 3月 8日(木) 「古文書入門講座3回目」 受講者20人 ・ 2月 17日(土) 「家庭料理講座」 受講者20人 ④周知方法 市広報、市ホームページ、仙北地域カレンダーに掲載して全戸配布 ⑤事業実績 平成24年度からの実績 平成24年度:7企画、受講者延121人、平成25年度:8企画、受講者延145人、平成26年度:7企画、受講者延181人、平成27年度:7企画、受講者延152人、平成28年度:7企画、受講者延164人					
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> <p>受講後、実施しているアンケート結果を基に、住民のニーズや時代に合わせた七つの講座を開催し、毎回好評をいただいている。 また、キャンセル待ち予約をいただいた場合においても、講師の方と相談をしながら定員枠や回数を増やして対応することにより、受講機会の拡大につながった。</p>					
課題等	限られた予算であるため、費用を最小限度に抑えるとともに、市民のニーズに応えられるような講座の開催が必要である。また、会費をいただくことを視野に入れた検討も必要である。					
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○ 今後とも住民のニーズを十分に把握し、講座の設定を行っていただきたい。体験講座をきっかけにして、参加者の更なる学習や活動、関係づくりにつながるようにしていただきたい。古文書入門講座などは、更にレベルを上げたり、地域の歴史探索等につなげていくことが考えられる。</p> <p>◇ 平成24年度からの実績より、受講者は僅かながら増えている傾向にあります。しかし、講座内容がこのままでいいのかを常に心がけ、アンケートの実施結果を生かしてもらいたいものです。好評である講座は他の公民館でも実施できないのでしょうか。講師と相談するなどして、公民館同士の連携を図っていただきたいと思います。</p> <p>□ 「暮らしの達人講座」とのネーミングは、それ自体がキャッチコピーとなっていて素晴らしい。内容も、「葬祭マナー講座」「リメイクキャンドル作り講座」「古文書入門講座」など、ユニークで魅力的なものとなっている。キャンセル待ちが発生した場合、定員枠や回数を増やして対応しようとするのは、受講者の立場に立った考え方である。そのような、受講者本位の考え方であれば、会費を頂戴することに反対する受講者は皆無であろうと想像する。</p>					

事務事業の点検・評価表

		番号	12	分野	芸術・文化	担当課	太田公民館
事業名	太田地域芸術発表会						
事業の目的	太田地域住民の文化活動の成果を発表し、鑑賞する機会を提供することにより芸術文化の振興を図り、心豊かな地域づくりを推進する。						
事業の実施状況	事業費						201千円
	1 開催日	作品展示 平成29年10月28日(土)・29日(日) 芸能発表 平成29年10月29日(日)					
	2 開催場所 3 内容	太田文化プラザ ・作品展示 短歌、生け花、盆栽、陶芸、水墨画、押し花、編み物、パッチワーク、川柳、写真、絵画 ・芸能発表 コーラス、日本舞踊(ゲスト出演)大正琴、フラダンス ・顕彰ツアー 倉田政嗣(秋田県民歌 作詞者)、鈴木空如(法隆寺模写)の墓所などを巡るバスツアー					
	・平成28年度	作品展示	82人	200点	芸能発表	17団体・個人(約100人)	38演目
	・平成29年度	作品展示	93人	203点	芸能発表	17団体・個人(約100人)	31演目
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった						
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業は、芸術文化団体、サークルにおける活動の成果を発表する貴重な機会であり、会員の励みとなっている。また、団体・会員の相互交流が図られるとともに、地域の芸術文化の振興も図られている。 ・ 太田の秋まつりが中止された以降も、地域の秋の風物詩として地域住民と共同で開催していることは、地域づくりの一助として評価できる。 ・ 子どもたちが披露する機会を検討したが、会場等の関係で実施できずにいるため、今後の課題となっている。 						
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術文化団体、サークル会員の高齢化により、参加者の減少が見られる。 ・ 以前は、太田の秋まつりと同日に各種イベントが開催されていたため集客があったが、平成28年度からは単独での開催となり、集客に苦慮している。このことから、多くの市民に鑑賞いただけるよう周知を図るとともに、創意工夫も必要である。 						
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 太田の秋まつりの中止が影響を及ぼしていることから、何からの代替策を期待したい。子供たちの参加も重要であることから、会場等についての改善を望みたい。</p> <p>◇ 発表会の内容の一つに、顕彰ツアー(倉田政嗣、鈴木空如の墓所などを巡るバスツアー)がありますが、太田地域住民よりも大仙市民全体に呼びかけてもらいたいです。大仙市が誇る二人の巨人。名前は知っているが出身地で詳しい説明を聞く機会もあまりないことから、一般市民の中にはこうした機会を待っている人が多いでしょう。文化財保護課との連携も考えられます。</p> <p><input type="checkbox"/> 秋まつり中止後も、本事業を単独で継続し、地域住民文化活動の発表の場確保に努めていることは、大きな価値のあることと考える。このような発表の機会や場は、一度なくなってしまうとその再開には、莫大なエネルギーを必要とする。より多く参加者を得、本事業を活性化するためには、より多くの方を巻き込み、意見を聞くことが肝要であろうと思う。倉田政嗣、鈴木空如、男鹿和雄等多くの著名文化人を輩出してきた地域である。地域文化の振興のために協力していただける方は、市役所太田支所内はもちろん、地域内随所にたくさん存在しているはずである。若い方も含めた、多くの声の集約に努めていただきたい。</p>						

事務事業の点検・評価表

	番号	13	分野	芸術・文化	担当課	総合市民会館
事業名	大仙市音楽祭2017					
事業の目的	「音楽のまち大仙」として、長年育んできた伝統と財産をより市民の身近なものとするため、「みんなでつくる、みんなで楽しむ、みんなの音楽祭」をテーマとした市民参加型音楽祭を開催し、広い世代に音楽に触れ合うことのできる機会を提供する。					
事業の実施状況	事業費					18,339千円
事業の実施状況	<p>○開催日 平成29年11月3日(金)・4日(土)・5日(日)</p> <p>○主催 大仙市</p> <p>○共催 仙台フィルハーモニー管弦楽団、コンサートイマジン、FMはなび</p> <p>○後援 AAB秋田朝日放送、秋田魁新報社</p> <p>○会場 大曲市民会館大ホール・小ホール・大曲高校</p> <p>○公演内容</p> <p>11/3(金)「0歳からのオーケストラ」仙台フィルハーモニー管弦楽団・歌のお姉さん(大ホール/473人)※有料 「葛バレエミニステージ」葛バレエ研究所(小ホール・160人)</p> <p>11/4(土)「中学生のためのオーケストラ」仙台フィルハーモニー管弦楽団(大ホール/1,963人) 「大曲中学校吹奏楽部ミニコンサート」(大ホール/216人)</p> <p>11/5(日)「地元音楽団体ミニコンサート」①大曲吹奏楽団②Msウインドオーケストラ③仙北吹奏楽団 ④SensationalZIP(小ホール/296人)</p> <p>「市民のためのオーケストラ」仙台フィル/奥村愛(コンサートイマジン)(大ホール/524人)※有料 ・このほか、ホールサウンドツアー(大ホール/28人)、楽器クリニック(大曲高校/77人)も実施した。</p>					
自己評価	<p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった </p> <p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </p> <p>平成29年度は、「大仙音楽祭」スタートの年であったため、音楽祭のノウハウを持つ仙台フィルハーモニー管弦楽団に協力を依頼して開催し、公演後の来場者アンケートでは、「非常に良かった」「良かった」と好評をいただいた。反面、運営側からは、仙台フィルの委託公演にばかり目が向けられ、地元音楽団体の公演に思うように力を入れることができなかったとの反省や、3日間の開催ではスタッフの負担が大きすぎ、もう少し余裕がほしかったとの意見が多く聞かれた。「音楽のまち大仙」として誇れる音楽の祭典を初年度で実施できたこと、そして、多くの市民に鑑賞(参加)していただけたことは評価できていると思っているが、音楽祭の開催日程や公演内容については、毎年検証し見直ししていく必要がある。</p> <p>今後も実行委員の方々はもちろん市民の意見を広く積極的に取り入れながら、大仙市音楽祭のコンセプトである音楽を通した「まちづくり」「ひとづくり」「きずなづくり」を推進していかなければならない。</p>					
課題等	平成29年度の音楽祭は、仙台フィルに全面的な協力を依頼したため、3日間で4公演という委託料を含めた音楽祭の開催経費は高額なものとなった。2年目となる平成30年度は仙台フィルに替えて山形交響楽団に一部協力を依頼しているが、企画公演の内容については、現在実行委員会で検討している。今後の大仙市音楽祭は、そのテーマどおり企画から運営まで市民が参画する音楽祭として発展させていくことから、開催経費についても実行委員会と協議をしながら検討していく必要がある。					

裏面に続く

<p>外部評価</p> <p>有識者の 意見・評価</p>	<p>○ 新人音楽祭コンクールの後継事業1年目として大きな成果を挙げたと評価できる。今後は、経費を抑えながら持続可能なものにしていくことに努めていただきたい。</p> <p>◇ 30年間実施してきた「大仙市大曲新人音楽祭コンクール」の後継事業として平成29年度から開催したのですが、実現までの様々な苦労が偲ばれ、大きな決断だったと思います。装いを新たにした音楽祭も3日間の来場者が延べ4,000人となり、多くの市民が楽しんだことでしょう。スタートの年でもあり、様々な課題もあったようです。多くのボランティアに支えられた事業であったが、実行委員会とも協議を重ねながら翌年度以降の発展に繋げてもらいたいです。</p> <p>□ 既に一石が投じられ、もう後戻りはできない状況かと推察する。その一石の波の行方を見てみると、開催経費の問題よりも、「本当に市民による、市民のための音楽祭だったのか」ということに行き着くように思う。優れた演奏家を連れて来て、市内全小・中学生を動員し、それなりの体裁を整わせることはいつでもできる。そうではなく、市民がどのように参画し協力し合い、例え稚拙でも、どのような楽しい音楽祭が生まれたのかというプロセスの方が大事かと思う。</p> <p>多くの市民が、心から楽しいと感ずる音楽鑑賞の機会を提供したり、音楽をみんなで創り上げること自体の楽しさを市民に味わわせることができこそ、市音楽「祭」と呼べるように思う。そのためにも、実行委員会を中心とした、運営側の決断力と指導力に期待したい。</p>
-----------------------------------	---

事務事業の点検・評価表

	番号	14	分野	芸術・文化	担当課	文化財保護課
事業名	角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業					
事業の目的	<p>東北地方を代表する雄物川舟運の歴史を伝える「角間川の旧家群」を活用し、角間川地域全体の歴史と交流をキーワードに、地域活性化拠点エリアを「川のまち歴史交流の杜」として整備する。</p> <p>国登録有形文化財の旧本郷家住宅をはじめとした秀逸な近代建造物群を利活用できるように、エリア内へ案内所等の便益施設を計画的に整備し、地域文化の向上と、旧池田氏庭園・角館・増田などとの広域的な文化観光交流を推進する。</p>					
事業の実施状況	事業費	73,972千円				
	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ○(仮称)川のまち角間川・歴史交流館整備について(基本構想) 策定 ○大仙市議会 議員説明会を開催 ○角間川エリアを地域資源として捉えた地域活性化を目指した住民活動が本格始動 				
	平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ○本郷家住宅 国登録有形文化財(建造物)に登録(平成28年11月) ○土地収用法に基づき県知事から事業認定(平成29年2月) ○『河港のまち角間川・歴史まちづくり事業 基本計画』策定(平成29年3月) ○荒川家の土地・建物公有化完了(平成29年3月) 33,257千円 ○文化財保護審議会現地指導、県建築士会視察、まちづくりグループとの座談会開催 				
	平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ○本郷家・北島家の土地・建物公有化完了(平成29年6月・9月) 58,056千円 ○旧本郷家住宅生活痕改修、三家庭園整備 ○旧本郷家住宅特別公開に約950人が来館(平成29年10月) ○旧荒川家住宅保存整備工事(便益施設への改修)の実施設計完了 				
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div>					
	<p>平成29年9月に主要な事業用地である三家の土地・建物の公有化が完了した。国登録有形文化財として公開活用の中核となる旧本郷家住宅については、見学に供するための改修を行い、特別公開を開催したところ、地元を中心に約950人の来館者があり、順調に進行している。</p> <p>地元のまちづくりグループが各種イベントや勉強会を計画するなど、本整備事業が市民による地域活性化の動きを後押ししている。</p> <p>また、秋田公立美術大学からデザイン・アート面の技術提供や、教材として利用するなどの提案があり、民・学・官連携によるまちづくりのための下地が徐々に整いつつある。</p>					
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建造物群の老朽化が進んでおり、安全確保の観点から早急に点検・改修する必要がある。 ・ 旧荒川家については、建物(部材含む)が秀逸で、地元住民・団体から保存要望があるため、できる限り梁や柱などを残す改修方針とするが、設計監理に高い技術と経験が必要。また、相応の建築コストを要するため、空き家対策補助金等を活用して整備を進める必要がある。 ・ 建築基準法・消防法との適合化などの課題があるが、可能な範囲で地元要望を反映させる。 ・ 旧本郷家の公開期間が拡大するため、早急に地元ボランティアガイドを養成する必要がある。 					

裏面に続く

<p>外部評価</p> <p>有識者の 意見・評価</p>	<p>○ 地元のまちづくりグループとも連携して取組が行われており、大変望ましい形である。秋田公立美術大学との連携・協力も一層進めていただきたい。保存・維持のために経費を要するため、工夫しながら取り組んでいただきたい。</p> <p>◇ 角間川の旧本郷家、旧北島家、旧荒川家の土地・建物の公有化が完了しました。ここまで至るには多くの困難があったことでしょう。所有者の方々と、公有化まで関係された皆様に敬意を表します。</p> <p>旧本郷家は国登録有形文化財に登録されたことから市民の関心も高まり、特別公開には950人が訪れています。地元のまちづくりグループのイベントや秋田公立美術大学の技術提供など、民・学・官の連携が徐々に整いつつあります。三家の全面公開までにはまだ時間を要しますが、旧池田家・払田柵跡と合わせた歴史建造物訪問ツアー等に期待が高まります。</p> <p>□ 角間川三家を保存することで、舟運の川港として栄えた往時の歴史を伝えるだけでなく、地域活性化の拠点にしていこうとの積極的発想に敬意を表す。角間川は、多くの歴史に彩られている。小野寺氏と戸沢氏との勢力が拮抗していた場所、舟運で繁栄した川港、戊申戦争の激戦区、石川理紀之助が救済に入った木内や布晒も地域内にある。それらの歴史遺産を整備していただき、再び角間川に光を当て、町を活性化させたいと考えている住民は少なくない。三家を中心とした整備事業を進めながら、地域活性化に必要な人材発掘やソフト開発には、多くの経費と難儀とが伴うと予想されるが、粘り強い取組を祈念申し上げたい。</p>
-----------------------------------	---

事務事業の点検・評価表

	番号	15	分野	スポーツ	担当課	スポーツ振興課
事業名	チャレンジデー2017					
事業の目的	<p>チャレンジデーは、毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されている「住民参加型のスポーツイベント」です。</p> <p>市民が身近な場所で、年齢や性別を問わず気軽に楽しんで参加し、15分以上の継続した運動やスポーツ等を行うことで「健康づくり」や「地域の連携と活性化」のきっかけをつくり、更には市内の各地域・団体等が連携しながらスポーツに親しむことによって「生涯スポーツ社会の実現」を図ることを目的とします。</p>					
事業の実施状況	事業費		1,019千円（うち、市負担金 380千円）			
事業の実施状況	<p>チャレンジデーは、人口規模がほぼ同じ自治体同士が、15分以上継続して運動やスポーツを行った住民の参加率を競い合うもので、大仙市としては5回目の参加となっている。</p> <p>1回目から4回目までは、チャレンジデーというイベントの浸透を図ることに重点を置いた展開に努め、地道に学校や企業、スポーツ団体をはじめとする市内ほぼ全ての団体や組織に周知と協力を働きかけてきた。結果としては、3回目で神奈川県座間市との対戦で1勝を挙げているものの、参加率としては50%台となっている。</p> <p>今回の挑戦は、市民の関心を更に向上させるため、数字で結果が見えるよう参加率を大幅に増やすことに重点を置いた展開に取り組むこととした。具体的には、定住人口の取り込みに加え、大型商業施設や小売店を含む商業組織に全面的な協力を依頼し、流動人口や交流人口の取り込みにも焦点をあわせた展開としている。</p> <p>◎過去の実績</p> <p>5回目(大仙市:84.0% Vs 山梨県甲斐市:86.8% Vs 鹿児島県霧島市:90.0%) 4回目(大仙市:55.7% Vs 東京都小金井市:82.6%) 3回目(大仙市:51.7% Vs 神奈川県座間市:30.9%) 2回目(大仙市:47.1% Vs 愛知県碧南市:69.5%) 1回目(大仙市:40.6% Vs 長崎県大村市:67.9%)</p>					
自己評価	<p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった </p> <p>過去4年間の地道な周知活動の結果、チャレンジデーという言葉は市民に広く知られてきたと実感できるようになった。報告の方法も簡略化することで、報告数も格段に増えた。</p> <p>結果として、今回は対戦自治体には僅差で惜敗したものの、参加率が84.0%で前年比28.3%の増加となり、全国で1番参加率を伸ばした自治体に贈られる「参加率アップ賞」を受賞することができた。</p> <p>はじめの頃は、チャレンジデーというイベントをどのようにして市民に周知・浸透させられるのかが悩んでいたが、5回目にしてある程度のパターンを確立できたと思っている。大仙市において90%以上の参加率は困難であると思われるが、当面はそれを目標として「健康づくり」や「地域の連携と活性化」のきっかけづくりを推進していきたい。</p>					
課題等	<p>現在は、市内全域で約80ほどのイベントを開催し、終日どこかでスポーツに関する活動ができるような日程を組んでいる。各地域においてメインとなるイベントを中心に展開しているが、イベント数が多いため毎年同じような種目となってしまふ。今後は、市民がマンネリ感を持たないよう、楽しく新しい新鮮みのある種目の発掘に努めなければならない。</p>					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ チャレンジデーの前と当日だけでなく、年間を通じてスポーツに親しめるよう、経常的な意識啓発等に努めていただきたい。年にあと1回か2回、小規模で似たようなことを行ってもいいように思える。</p> <p>◇ 大仙市としては5回目の参加となりましたが、年々市民の参加率が増加しています。今回は市民の関心を向上させるために、大型商業施設や小売店に全面的な協力を依頼した結果、「参加率アップ賞」を受賞しました。こうした働きかけを教訓にして、翌年度は更に上位の90%超を目指して取り組んでもらいたいです。こうして取組は、市民の健康づくりと生涯スポーツの実現向上に大きく前進することでしょう。</p> <p>□ 「参加率アップ賞」の受賞、おめでとうございます。5年間の地道な努力が、成果として認められたものであり、一市民として心から嬉しく感じている。</p> <p>自己評価欄での記載のとおり、確かにチャレンジデーは市民に広く認知されてきた。しかし私の職場に、どうやって報告すれば良いのかとの問い合わせが複数件あった。このことを考えると、実際の実施率はもっと高いのではないかと考えられる。難儀をおかけするが、一層の周知活動、特にチャレンジデー直前のPR活動に力を入れていただきたい。市広報だけでなく、町内会報等にも参加要請の掲載をお願いしたり、「FMはなび」を一層の活用したりすることで、各家庭戸別への浸透を図りたい。</p>					

学識経験者の総評

佐藤修司（秋田大学教育文化学部長）

少子高齢化、人口減少が進み、地域社会が縮小する状況の中で、教育に関わる事業においても、予算の縮減や参加者・受講者の減少などの影響が見られるようになってきている。教育委員会、学校、社会教育機関等においてはこのような中でも様々な工夫、取組が行われており、効果を上げている。

教育は、地域社会があつてはじめて成り立つものであり、地域社会のために教育があるのであつて、教育のために地域社会があるわけではない。地域社会の衰退は教育の衰退に直結する。だとすれば、教育の目的は、単に学習者の学習意欲の充足、資質能力の形成にとどまるのではなく、地域社会の維持・発展と、そこに暮らす人々の幸福追求・権利実現でなければならない。

学習者のニーズを調査して、ニーズに応じた学習機会を提供することが教育機関の任務であるわけだが、それだけでは受け身の姿勢、待ちの姿勢にとどまる。その段階を越えて、地域社会の状況を踏まえて学習ニーズを積極的に掘り起こすこと、形成していくことも必要であろう。教育機関の職員の方は、地域社会の状況を観察分析し、種々の機関・団体と連携して地域づくり、まちづくりをリードする存在であつてほしい。

以下の点は、各事業において既に取り組みされていることであり、今後とも強化していただきたい点である。

- 1 地域の将来を見据えて、子供たちに情報化、国際化などに対応できる十分な力を保障すること。
- 2 子供たちが地域の伝統文化を継承できるように、異世代交流を盛んにすること。
- 3 教育がまちづくりと連携して行われ、地域の維持・発展に積極的に関わること。
- 4 地域社会の様々な団体、機関、個々人の意識をつなげ、連帯して前進する風土を形成すること。

鈴木三郎（社会教育委員）

大仙市教育委員会の権限に属する事務の範囲は幅広く、その全てに対して点検評価を行うことは困難なことと思われます。

今回、外部評価委員会に対して示された主要15事業について丁寧な説明を受け、委員からも質問をしながら終了したところです。

教育委員会は学校教育、社会教育・生涯学習、文化財、スポーツまで幅の広い分野を所管していますが、財政的には少子高齢化の影響で年々厳しくなる教育予算であります。

学校教育では小中学校の再編も一段落したところで、平成29年度は新たな発想と効率化を目指した事業の展開が見られました。

社会教育・生涯学習では、長年継続してきた事業であってもその後継事業として、視点を変えた新しい市民参加型事業に展開させていることは評価されるものと思ひ

ます。

毎年秋の収穫期に開催される各地域の公民館事業は、ほとんどが開催時期も事業内容も似たようなものが多く、参加者の人数も減少傾向にあります。

地域感情を考えると難しい面もありますが、合同・統合など将来的な方向を考えておくべきと思われます。

教育委員会の所管する施設が年々増加している現状にあります。

担当する職員の多忙化が考えられることから、指定管理者制度導入の他、再雇用職員の活用と市長部局職員の横断的活用などで効率化を図ってほしいです。

スポーツや芸術文化は、市民にとっては生きがいとなり夢のある事業が数多く含まれていることから、出演したい、参加したい、出てみたいと思わせるような工夫で発展してほしいです。

毛利博信（元小・中学校長）

昨年の総評に、「8市町村合併による大仙市誕生から、12年が経過した。あらゆる機会を捉え、特に明日の大仙を創る若い世代には、大仙市の隅々にまで豊かな文化と美しい自然が広がっていることを伝えたい。そのことで、市全体の発展を願う市民が育ち、活性を支えてくれるものとする。そのために、生涯学習・学校教育その他あらゆる機会を通じ、大仙市の優れた文化や豊かな自然を、オール大仙的郷土愛醸成の観点から伝えていきたいものである。」と書かせていただいた。

書くだけでは無責任と感じ、ペアーレ大仙で『ふるさと再発見』という講座をコーディネートし開講している。これまで訪れた主な視察先は、小松煙火・鈴木酒造・檜岡焼窯元・樅峰苑・東部新規就農者研修施設・角間川三家・秋の旧池田氏庭園 払田分家庭園と払田柵・天然記念物の桜4か所・檜岡城・倉田政嗣石碑・浮島神社・カワセミ繁殖地・刈和野高屋敷の水芭蕉・小種の菜の花畑・大台山からの散居眺望等である。その結果、前述のように大仙市の隅々にまで豊かな文化と美しい自然が広がっていることを、私だけでなく参加者全員が実感した。ただ、「明日の大仙を創る若い世代に」と記載し、講座を土曜日に開設したのにもかかわらず、20・30代の参加は皆無であったことが反省点である。

私の反省は兎も角、訪問先の多くで市教育委員会職員諸兄や市役所職員諸氏の日頃の尽力を垣間見ることができたことが、私にとっては大きな収穫であった。檜岡焼のルーツが、相馬焼であることを発見したのは、文化財保護課の発掘成果であった。檜岡城が整備されたのは、南外公民館と文化財保護課の功績であろう。太田地域を訪問した際には、太田支所長・市民サービス課長・大仙市アーカイブス館長・就農者研修施設長が、率先し説明役案内役を買って出てくれた。公務員としてのあるべき姿を、そこに見たように感じ、何より嬉しかった。

美しい大仙市があり、そこに市民がたくましく生活し、それを市役所職員が懸命に支えている。このことを、より多くの市民に体感いただきたいものと感じている。